

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです

**「勝ち負け」にこだわる人 この世は、弱肉強食ーライオンの餌になるな**

仕事ができる社員は、強烈な野性味とハングリー精神を持っています。もっといい仕事をしたい、もっといいポジションにつきたい。もっと素敵な恋人を見つけたい。もっとお金を稼ぎたい。もっといい生活がしたい。「もっともっと」と上を目指す気持ちを持つことが、仕事ができる社員になるための前提条件です。今の状態が何とか維持できればいい、などと安定志向になっていると、いつか周りに食われてしまいかねません。世の中は、すべてが競争です。そして、自分の足下を固め、上昇志向でどんどん上に上がっていくためのハングリー精神を持つことがいかに重要かを、いち早く認識できた人が競争に勝ち残っていきます。鹿の群れがライオンに襲われたら、鹿たちは周りにいる家族や兄弟に構う余裕もなく一斉に逃げ出します。そして、体力のないものや病気のもの、ケガをしたものがライオンの犠牲となることで、集団は生き延びていきます。厳しい世界なのです。ハングリー精神のない人は、ライオンの餌に自ら志願するようなもの。競争に勝つために、体を鍛えることも知恵を磨くこともせずにいるのは、前向きに進歩していく人たちから置いていかれることを漫然と受け入れるのと同じです。だから、勉強を欠かしてはいけません。知識を蓄え、頭の使い方を学ばなくてははいけません。

今は、勤めている会社がいつどうなるかわからない時代です。ある日突然、自分が会社を離れなければならないときがくる可能性もあります。そのとき、新しい会社で自分に何ができるのか、一度じっくりと考えてみることです。会社を辞める人には二つのパターンがあります。一つは、それなりの技術を持って会社を飛び出して「スピンアウト」といわれる形のもので、もう一つは、社内での評価が低く、仕事を任せてもらえなくなって樹種的に会社を辞めたり、追い出されたりする「ドロップアウト」で、40代、50代で新しい仕事を探している人には、後者のタイプが多いようです。ドロップアウト組には、なかなかいい仕事は回ってきません。第一に、その年代に対する募集は、「できる人」を常に求めている外資系企業からが多いので、英語ができなければそれだけで仕事の幅がぐんと狭まります。少ない仕事を日本語しかできない者同士で取り合わなければなりません。一方、英語ができれば仕事を選ぶこともできますし、高い給料だってもらえます。そもそも、20代後半から30代半ばまでにヘッドハンターから一度も声がかからないなら、その人はビジネスマンとしての実力、社会人としての魅力に欠けていると自覚したほうがいいかもしれません。たとえ勤めている会社では高く評価されていたとしても、裏を返せば「その会社でしか評価されていない」ということです。しかし、英語や会計など、普遍的な技術や知識、資格を身につければ、いま勤めている会社はもちろん、他の会社に転職しても役立つことができます。どこに行ってもそれなりの待遇を受けられるし、活躍できる場を与えてもらえるはず。だから、時間を見つけて勉強するべきなのです。

世の中は競争です。そして、その競争には勝たなければいけません。そのためには、自分であらゆる機会をとらえ、勉強することが一番確実な近道です。すべてが競争であり、それがこの世の中の原理原則なのです。このことを何度も繰り返して言うのは、誰もが例外なく厳しい競争の場に置かれた立場であることを、意識してほしいと思うからです。ここからは逃れられないのです。仕事ができる社員は、そういう精神を持って、「自分は何をしなければならないのか」を常に考えています。あなたは後れを取っていないでしょうか。自分を取り巻く狭い社会で生きることだけ考えていると、大局を見失います。あなたが生きている会社とか地域といった狭い社会は、その外にある社会全体からの影響を常に受けていて、その結果どうなるかは誰にもわかりません。予測して、事前の準備ができるかどうかは、すべてあなた次第なのです。

仕事ができる社員になるための前提条件は、何ですか？

( )